

サンガ小倉

2017年 夏号

平成29年
6月発行

カラスと『歎異抄』

愛犬のチワワがやって来て

からここ数年、お晨朝後、雨の

日以外は、朝七時頃に町内を

十分程掛けて一周する散歩が

日課になっています。五月は

特に空も晴れ渡り、適温で、朝

から清々しい気持ちにさせて

頂きます。そんな中、一本北側

の筋にゴミが散乱してしまし

た。業務用の袋が破られ、「お

しぼり」や残飯、食品パック等

が散らばっています。カラス

の仕業です。一羽が

地面に降り、こちら



古法寺 住職 長岡 厚

(小倉北区鍛冶町)



を見ています。立派な黒い嘴、

黒光りした羽毛、意外と愛ら

しく艶々した眼をしています。

「カラスは英語でCROW(クロ

ウ)・・・、カラスも苦勞してい

る」等と朝の清々しい気候の

せいか、優しい気持ちになり、

そんな自分が誇らしく嬉しく

なりました。その場を後にし、

爽やかな気持ちと足取りで境
内地に戻ってきましたら、前
方に白い物体がありました。

さつき散乱していた「おしぼ

り」が落ちていました。上を見

ると、本堂の屋根に汚れた紙

や食品パックの残骸がのって

いました。カラスの仕業で

す！道は筋違いですが、空は

繋がっているのですね。「こっ

ちに捨てるな！」怒りの炎が

一気に燃え上がり、顔面も、多

分、頭皮も赤くなり頭髮が逆

立つくらい腹が立ちました。

正に赤鬼の様相です。先程の

優しい気持ちの私から、僅か

五分しか経っていません。本

堂の前で、一息ついて「自分の

姿」や一連の出来事を考えて

みました。

「さるべき業縁のもよおさ

ば、いかなる振る舞いをもす

べし」(『歎異抄』)

そんな私の事を知ってか知
らずか、あの鳴き声を放ちカ
ラスは上空に消えていきまし
た。

その晩、坊守に頼んで大好
きな焼き鳥パックを買ってき
てもらい、以前頂戴した芋焼
酎と一緒に美味しく頂きました
た。もちろん、今朝の出来事な
ど忘れ去っていたことは言う
までもありません。

「(それほどの業)をもちけ
る身にてありけるを、たすけ
んとおぼしめしたちける本願
のかたじけなさよ」(『歎異
抄』)

